秋田魁新報　2023年06月01日付　県央

大型船乗組員に必要「海技士」

「航海」部門4級筆記合格

男鹿海洋高、開校以来初

鎌田さん「洋上風力、携わりたい」

石川さん「短大で3級取得狙う」

男鹿海洋高校（男鹿市、浅野博之校長）の海洋科3年の鎌田太郎さん（17）と石川太一さん（17）が、大型船の乗組員に必要な国家資格「海技士」のうち、「航海」部門4級の筆記試験に合格した。同校によると、航海部門の筆記試験合格者は2004年の開校以来初。

◇

海技士は20トン以上の大型船舶の乗組員に必要な資格。船の運航に関わる航海部門の「航海士」や、エンジンなどの機関を運転整備する機関部門の「機関士」などがあり、大型船舶にはこうした海技士の乗船が求められる。

男鹿海洋高は、本県沖で大規模な洋上風力発電事業が控えていることを受け、風車設備の保守管理に携わる人材育成に着目。作業員を輸送する大型船の運航など、県内の洋上風力関連事業の担い手となることを期待し、21年度から資格取得を希望する生徒を後押ししてきた。

21年11月には、男鹿海洋高に洋上風力発電の建設や保守点検を担う人材の訓練施設を開設する日本郵船（東京）が、生徒向けに講話を行った。

鎌田さんと石川さんは、1年時に聞いた日本郵船の講話や授業を通じて、資格を持つことでさまざまな船舶の運航に携われることを知り、2年時の夏休みから本格的に筆記試験の勉強を始めた。

試験は航海術や船体の構造、法規など複雑な計算や知識が必要で、「かなり難しい試験」と海洋科主任の秋島俊文教諭（40）。

2人は航海の教科を受け持つ船木英也教諭（64）の指導の下、放課後や長期休業中に2、3時間の補習を受け、自宅でも毎日のように学習を重ねた。1回目の試験は一歩及ばなかったが、今年4月に受けた2回目の試験で共に合格を果たした。

筆記試験に合格した後、海技士の資格を取得するには、一定期間の乗船履歴が必要になる。

石川さんは県外の海上技術短大への進学を目指す。進学先で乗船経験を積む予定で「日本や海外でさまざまな船が活躍しており、将来の幅を広げられる資格。短大では、もう1段階上の3級の取得も狙う」。鎌田さんは乗船経験を積める会社への就職を考えている。「まだ船舶関係の会社という以外、明確には固まっていない。資格を取得し、将来的には県内の洋上風力関係事業に携わる仕事ができればいい」と将来を見据えた。

（藤田祥子）

定規やコンパスなどを使って海図に船の航路を書き込む石川さん（左）と鎌田さん

©秋田魁新報社